

ハタ科イズハナダイ属魚類Plectranthias sheniの日本からの記録と適用すべき標準和名の検討

誌名	魚類學雜誌
ISSN	00215090
著者名	藤原,恭司 田代,郷国 高山,真由美 瀬能,宏 本村,浩之
発行元	日本魚學振興會
巻/号	64巻2号
掲載ページ	p. 121-129
発行年月	2017年11月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



ハタ科イズハナダイ属魚類 *Plectranthias sheni* の 日本からの記録と適用すべき標準和名の検討

藤原恭司¹・田代郷国²・高山真由美³・瀬能 宏⁴・本村浩之³

¹ 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学大学院水産学研究科

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科

³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

⁴ 〒 250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館

(2017年2月8日受付；2017年6月20日改訂；2017年6月24日受理)

キーワード：ハナダイ亜科，イズハナダイ，フジナハナダイ，*Plectranthias anthioides*，分布，北限記録

魚類学雑誌
Japanese Journal of
Ichthyology

© The Ichthyological Society of Japan 2017

Kyoji Fujiwara*, Satokuni Tashiro, Mayumi Takayama, Hiroshi Senou and Hiroyuki Motomura. 2017. Records of the anthiine fish *Plectranthias sheni* from Japan and proposal of a new standard Japanese name. *Japan. J. Ichthyol.*, 64(2): 121-129.

Abstract Ten specimens (87.8–126.5 mm standard length) of the anthiine fish *Plectranthias sheni* Chen and Shao, 2002, previously known from Taiwan, were collected off islands in Kagoshima Prefecture, southern Japan, the first reliable records of the species in Japanese waters. The species is characterized by the following combination of characters: X, 17–18 dorsal-fin rays; 13 pectoral-fin rays, uppermost unbranched; 32–33 pored lateral-line scales; 4.5 scale rows above lateral line; 5 oblique scale rows on cheek; 17–18 gill rakers; third dorsal-fin spine longest; caudal fin emarginate; body reddish-pink with upper and lower series of blotches on lateral surface, upper series of blotches (below dorsal-fin base) barely extending below lateral line, posterior portion of lower series usually forming a broad stripe. The new standard Japanese name “Kiobi-izuhanadai” is proposed for the species.

*Corresponding author: Graduate School of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: kyojifujiwara627@yahoo.co.jp)

イズハナダイ属 *Plectranthias* Bleeker, 1873 (ハタ科：ハナダイ亜科) は、背鰭が10棘13–18軟条，臀鰭が3棘6–8軟条，胸鰭が12–18軟条，側線有孔鱗が25–41枚，尾鰭が二分形または深い湾入形でないこと，および主鰓蓋骨に3本の棘をもつことなどによって特徴づけられる (Randall, 1980). 本属魚類は現在までに52種が認められており (Randall, 1980; Heemstra and Randall, 2008; Allen and Walsh, 2015; Gill et al., 2016), その多くが小型種で，深場の岩礁域に生息する (Chen and Shao, 2002). そのため，採集される標本は少なく，形態的特徴や生息についての知見が不足している。

日本におけるイズハナダイ属魚類の研究は，伊

豆大島から得られた標本と Schmidt (1931) が東京の市場から *Selenanthias analis* Tanaka, 1918 として記録した標本を Katayama (1957) が *Plectranthias anthioides* (Günther, 1872) と同定して，イズハナダイ属魚類を日本から初めて報告したことに始まる。その後 Yoshino (1972) は沖縄島をタイプ産地とする *Plectranthias yamakawai* Yoshino, 1972 を新種記載し，日本産の本属魚類に2種を認めた。しかしながら，Randall (1980) が本属の定義を拡大したことにより，国内からは Yoshino (1972) 以降の追加種を含めて13種が知られている (岡本ほか, 2012; 瀬能, 2013, 2014; Gill et al., 2016; 岡本・本村, 2017; Tashiro and Motomura, 2017)。

2010年から2016年にかけて，鹿児島島の島嶼

域（草垣群島，大隅諸島，トカラ列島，および奄美群島）から日本産イズハナダイ属魚類のいずれの種にも同定できない10標本が得られた。これらの標本は鱗条数や鱗数，尾鰭の形態，色彩によって台湾からのみ分布が知られていた *Plectranthias sheni* Chen and Shao, 2002 と同定された。同標本は本種の日本における分布を初めて明らかにするものである。本報告では，鹿児島産 *P. sheni* の10標本を詳細に記載するとともに，これらの追加標本から明らかになった本種の種内変異についても報告する。また，本種に適用すべき標準和名について検討した。

計数・計測方法は Randall (1980) にしたがった。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで測定した。標準体長 (Standard length) は体長または SL と表記した。標本の作製，登録，撮影，および固定方法は本村 (2009) に準拠した。*Plectranthias sheni* の生鮮時の体色の記載は固定前に撮影された6標本 (KAUM-I. 55572, 83683–83686, 89482) のカラー写真にもとづく。色彩の表記は財団法人日本色彩研究所 (2010) の系統色名に準拠した。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) と神奈川県立生命の星・地球博物館 (KPM) に保管されている。

Plectranthias sheni Chen and Shao, 2002

キオビズハナダイ (新称)

(Figs. 1, 2, 4, Table 1)

Plectranthias anthioides (not of Günther): Katayama, 1957: 147, fig. 1 (Izu-oshima, Japan); Lee, 1990: 13, fig. 13 (Taiwan).

Plectranthias kamii (not of Randall): Shen and Lin, 1984: 9, fig. 4 (Taiwan).

Plectranthias sheni Chen and Shao, 2002: 65, figs. 1, 2 (type locality: Kaohsiung, Taiwan); Chen and Zhang, 2015: 926, fig. 1285 (Taiwan).

Plectranthias wheeleri (not of Randall): Wang, 2011: 364, unnumbered fig. (Taiwan).

記載標本 10 個体 (体長 87.8–126.5 mm): KAUM-I. 55572, 体長 116.3 mm, 鹿児島県南さつま市草垣群島 (30°50'N, 129°25'E), 水深 202 m, 2013 年 7 月 18 日, 釣り, 宮下 透採集; KAUM-I. 50396, 体長 126.5 mm, 鹿児島県三島村黒島, 水深 180 m, 2012 年 6 月 24 日, 釣り, 宮下 透; KAUM-I. 83683, 体長 93.4 mm, KAUM-I. 83684, 体長 107.1 mm, KAUM-I. 83685, 体

長 89.4 mm, KAUM-I. 83686, 体長 87.8 mm, 鹿児島県十島村中之島 (29°51'N, 129°56'E), 水深 220–250 m, 2015 年 12 月 22–23 日, 釣り, 中川輝幸; KAUM-I. 78928, 体長 123.3 mm, KAUM-I. 78929, 体長 118.5 mm, 鹿児島県十島村中之島東方屋久新曾根 (海底台地) (29°45'N, 130°21'E), 水深 250 m, 2015 年 9 月 22 日, 釣り, 中川輝幸; KAUM-I. 89482, 体長 124.1 mm, 鹿児島県十島村中之島東方屋久新曾根 (29°45'N, 130°21'E), 水深 260 m, 2016 年 7 月 18–19 日, 釣り, 中川輝幸; KPM-NI 26766, 体長 115.5 mm, 鹿児島県奄美大島名瀬沖, 水深 360 m, 2010 年 7 月 15 日, 橋本 司。

記載 計数値と体各部の体長に対する割合 (%) を Table 1 に示す。体は長卵形で，よく側扁する。吻端はやや尖る。鼻孔は 2 対で眼窩の直前に位置する。円形の前鼻孔とやや背腹方向に長い楕円形の後鼻孔は互いに接近し，後鼻孔は前鼻孔より大きい。口は端位で大きい。主上顎骨は平滑で，その後端は眼の後縁直下に僅かに達しない。

両顎の歯は絨毛状の歯帯を形成し，その幅は前方部で広く，側方部で狭い。上顎前方部の左右にそれぞれ 1–2 本 (通常 1) のやや小さな犬歯状歯がある。下顎側方部の中央付近に左右 1–2 対のやや大きな犬歯状歯がある。鋤骨歯は V 字形の絨毛状歯帯を形成する。口蓋骨に絨毛状歯帯がある。

眼は大きく，眼径は吻長とほぼ同大。眼の下縁は吻端の水平線上に位置する。両眼間隔は狭く，僅かにへこむ。前鰓蓋骨後縁は丸く，その上部は鋸歯状で，23–29 個の鋸歯がある。前鰓蓋骨後縁下部には 2 本の前向棘がある。主鰓蓋骨に 3 本の棘があり，中央の棘が最大で，上向きに曲がる。主鰓蓋骨後端は尖る。鰓耙は上枝と下枝下部 4–5 本は瘤状，下枝上部 7–8 本は細長く，その先端は丸い。

背鰭起部は胸鰭基部より僅かに前方に位置する。背鰭棘は第 3 棘が最長で，後方のものほど短い。背鰭第 10 棘の長さは第 1 棘より僅かに長い。背鰭第 2 棘長 / 背鰭第 3 棘長の値は 0.51–0.59。背鰭軟条はほぼ同長で，すべて分枝する。背鰭第 1–9 棘後方の鰭膜先端は僅かに伸長し，第 3 棘のものが最長。背鰭棘条部と軟条部の間は欠刻する。肛門は臀鰭起部直前に開孔する。臀鰭起部は背鰭第 4–5 軟条基部直下付近に位置する。臀鰭基底は短く，尾柄高より僅かに大きい。臀鰭棘は第 2 棘が最長で，太い。臀鰭軟条は第 2–3 軟条が最長で，前方の 1–3 軟条が伸長しない，または僅か

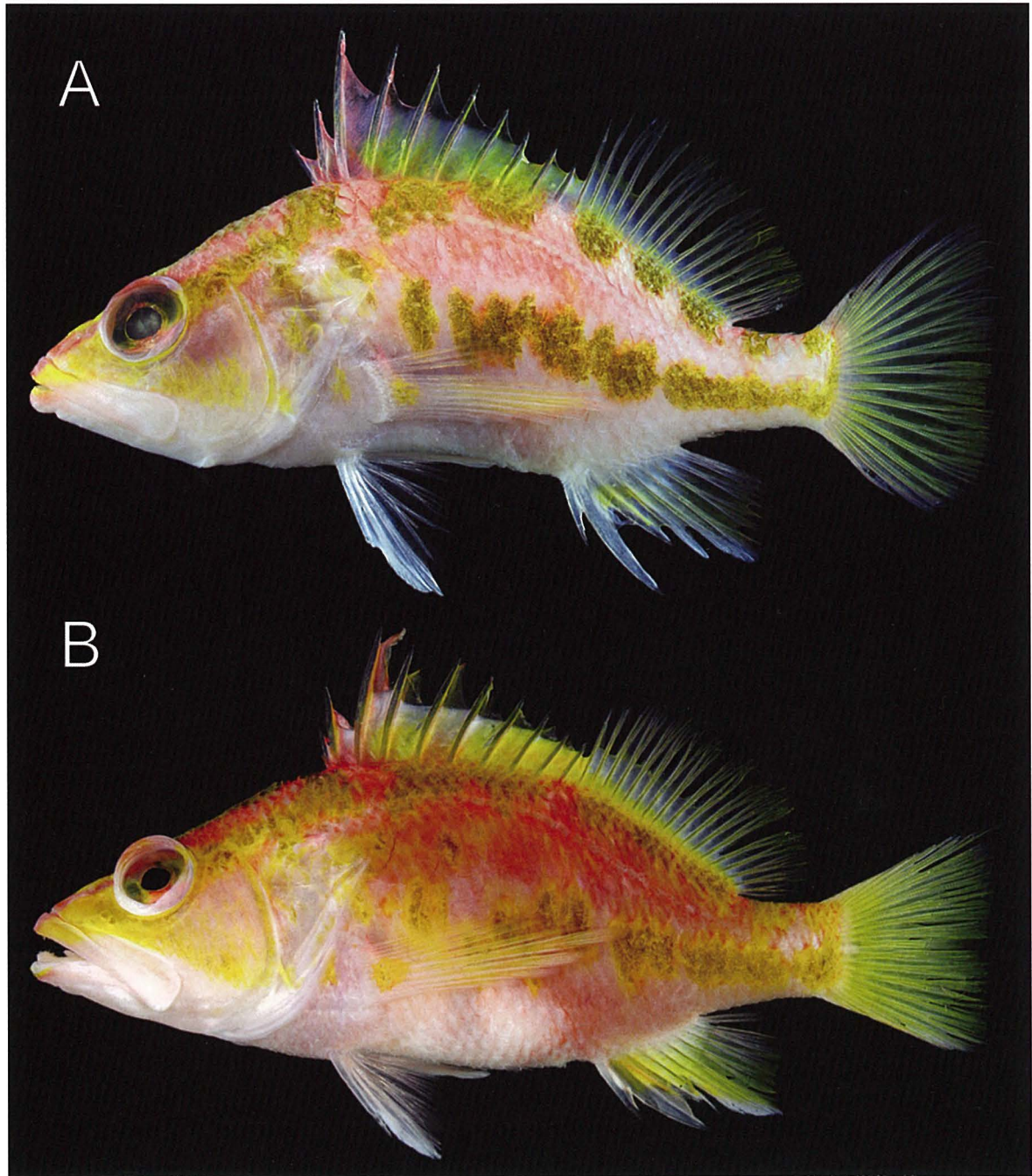


Fig. 1. Fresh specimens of *Plectranthias sheni* from Kagoshima Prefecture, Japan. A, KAUM-I. 83683, 93.4 mm SL, Tokara Islands; B, KAUM-I. 55572, 116.3 mm SL, Kusagaki Islands.

に伸長するものまで様々。胸鰭基部下端は吻端の水平線上に位置する。胸鰭は上から8軟条が最長で、その後端は臀鰭第1-2軟条基部直上に達する。胸鰭軟条は最上の1本を除いてすべて分枝する。腹鰭先端は尖り、その起部は背鰭起部直下に位置する。腹鰭を畳んだ後端は肛門に達しない。尾鰭は截形で、鰭条のいくつかは糸状にやや伸長する。

体は櫛鱗で被われる。頭部は吻部、両顎、および頭部下面を除き、櫛鱗で被われる。眼周辺の鱗は小さく、弱い櫛鱗。頭部背面の被鱗域は後鼻孔まで達する。各鰭の基底は細かい鱗で覆われる。側線は完全で、主鰓蓋骨上端から始まり体の背縁に並走し、尾鰭基部まで達する。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1A, B)：体の地色は

Table 1. Counts and measurements, expressed as percentages of standard length, of *Plectranthias sheni* from Japan and Taiwan. Modes and means in parentheses

	This study		Chen and Shao (2002)	
	Japan		Taiwan	
	Non-types <i>n</i> = 10	Holotype <i>n</i> = 1	Paratypes <i>n</i> = 3	
Standard length (mm)	87.8–126.5	106.7	101.2–115.1	
Counts				
Dorsal-fin rays	X, 17–18 (17)	X, 18	X, 17–18	
Anal-fin rays	III, 6–7 (7)	III, 7	III, 7	
Pectoral-fin rays	13	13	13	
Pored lateral-line scales	32–33 (32)	32	32–33	
Scale rows above lateral line	4.5 ¹	4.5	4.5	
Scale rows below lateral line	12–14 (13)	12	12	
Scale rows on cheek	5	5	5	
Gill rakers on first gill arch	5 + 12–13 (12)		5 + 12–13	
Measurements (% of SL)				
Body depth	34.7–40.3 (37.8)	39.4	35.8–42.8 (38.5)	
Body width	17.6–20.6 (19.2)	19.1	16.1–20.6 (18.5)	
Head length	43.0–45.6 (44.1)	43.2	42.9–46.2 (43.8)	
Snout length	10.5–13.1 (11.6)	11.2	10.9–13.1 (11.6)	
Orbit diameter	10.6–13.8 (11.9)	11.5	10.6–11.5 (11.0)	
Interorbital width	4.0–5.2 (4.5)	4.4	4.0–4.6 (4.3)	
Upper-jaw length	21.0–22.6 (21.6)	19.5	19.9–22.1 (20.4)	
Caudal-peduncle depth	11.8–13.0 (12.4)	11.5	11.2–12.9 (11.8)	
Caudal-peduncle length	18.1–20.1 (19.0)	18.2	17.0–19.1 (18.0)	
Pre-dorsal-fin length	39.9–44.0 (42.0)	35.6	38.1–42.5 (38.8)	
Pre-anal-fin length	67.7–71.8 (70.4)	70.7	68.9–75.4 (71.0)	
Pre-pelvic-fin length	36.8–40.5 (39.0)	36.0	36.6–38.7 (37.3)	
Dorsal-fin base length	52.1–56.4 (54.2)	53.8	47.9–57.1 (52.0)	
Anal-fin base length	14.4–16.0 (15.3)	14.6	14.6–16.4 (15.1)	
Caudal-fin length	22.3–28.0 (25.1) ²	24.1	23.0–24.1 (23.7)	
Pectoral-fin length	32.4–34.7 (33.3)	33.5	29.1–34.1 (32.7)	
Pelvic-fin length	18.4–22.9 (20.7)	21.2	20.8–22.4 (21.6)	
1st dorsal-fin spine length	5.0–6.6 (5.6)	5.1	5.1–6.1 (5.5)	
2nd dorsal-fin spine length	9.1–11.0 (9.9)	9.3	9.0–10.1 (9.5)	
3rd dorsal-fin spine length	15.7–19.8 (18.2)	17.6	15.7–18.2 (17.3)	
10th dorsal-fin spine length	5.6–7.5 (6.5)	7.0	6.1–8.4 (7.2)	
Longest dorsal-fin ray length	15.9–19.7 (16.9)	17.4	17.2–19.7 (18.0)	
1st anal-fin spine length	7.3–9.8 (8.3)	8.0	7.0–8.9 (7.8)	
2nd anal-fin spine length	15.6–19.7 (16.8)	16.6	15.9–17.7 (16.7)	
3rd anal-fin spine length	11.6–14.1 (13.2)	13.4	12.7–14.9 (13.6)	
Longest anal-fin ray length	20.2–21.8 (20.8) ²	23.4	22.8–24.1 (23.4)	
1st pelvic-fin spine length	12.0–14.8 (13.1) ²	14.8	12.8–15.2 (14.2)	

¹ and ² based on 8 and 9 specimens respectively.

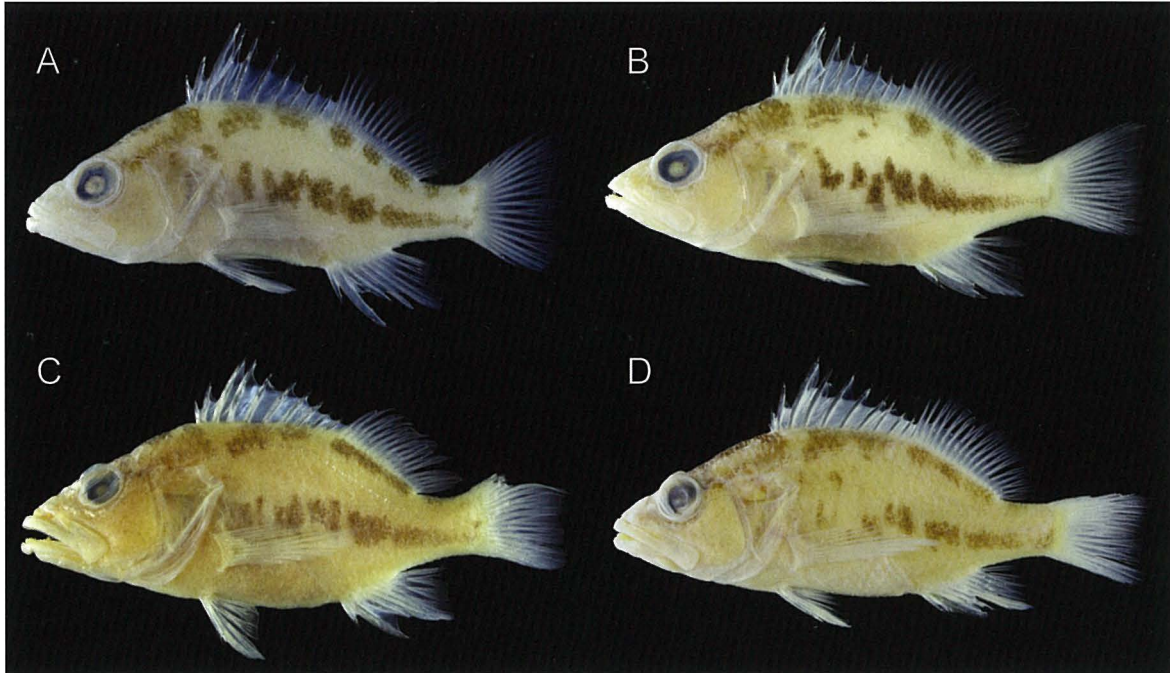


Fig. 2. Preserved specimens of *Plectranthias sheni* from Kagoshima Prefecture, Japan. A, KAUM-I. 83683, 93.4 mm SL, Tokara Islands; B, KAUM-I. 83686, 87.8 mm SL, Tokara Islands; C, KAUM-I. 50396, 126.5 mm SL, Osumi Islands; D, KAUM-I. 55572, 116.3 mm SL, Kusagaki Islands.

白色で頭部背面，体側上半はピンク色から赤橙色。頭部正中線に沿って吻端付近から両眼間隔域を通り背鰭起部前方まで達するさえた緑みの黄色帯がある。このうち両眼間隔域の中間部より後方では褐色域をともなうが，背鰭起部前方の褐色域とはつながらない（稀につながる）。上顎前方から眼を通り，背鰭起部まで達するさえた緑みの黄色斜走帯と吻端から眼の下部を通り，前鰓蓋骨の隅角部または胸鰭基底前方にまで達するさえた黄色斜走帯がそれぞれある。このうち眼の後縁から背鰭起部までの帯は褐色域をともない，左右の帯は背鰭起部前方でつながる。前鰓蓋骨の縁はあさい黄色で縁取られる。主鰓蓋骨の上部と後端付近にそれぞれ，褐色域をともなう不明瞭な黄色斑がある。

体側背部から中央部にかけて褐色域をともなうさえた緑みの黄色斑があり，それらは体側背縁に沿って並ぶものと体側中央部に並ぶものとに大別される。このうち，体側背縁の斑は体側上縁から側線上部にかけて，背鰭第4-9棘基底に1-2（通常1）個，軟条部基底に3個（一部の個体で帯状に連なる），および尾柄部に2個ある。これらの斑は体側後方に位置するものほど小さくなる。体側中央部の斑は，主鰓蓋骨後端の後方から胸鰭後端付近にかけて，背腹方向にやや細長い斑が帯状

に多数並ぶ。胸鰭後端付近より後方では一続きの縦帯を形成し，尾鰭基底に向かうにしたがいやや細くなる。体側背縁に沿って並ぶ斑と体側中央部に並ぶ斑との中間域に0-4個の不定形の小斑がある。

背鰭棘条部の鰭膜は第1棘から第4-5棘で薄いピンク色，第4-5棘から第10棘で明るい黄色。背鰭軟条部は半透明の白色で中央付近から縁辺にかけて黄色みがかかる。胸鰭基底付近は半透明の白色で，中央に褐色点をともなう円形の黄色斑がある。胸鰭の中央から後方にかけては淡い黄色で縁辺部は淡いピンク色。腹鰭は白色で軟条部後半の鰭膜は半透明の白色。臀鰭は白色，後方の鰭膜は半透明の白色で第2棘基底付近から水平後方に向かって黄色帯がある。尾鰭軟条は両端の淡いピンク色の1-2本を除き黄色がかかる。

固定時の色彩（Fig. 2）：体の地色は一様に淡黄色。頭部と体側背部から中央部にかけてある斑と帯は褐色域を除き消失する。胸鰭基部中央には褐色点からなる不明瞭な斑が残る。

分布 本種は台湾と日本からのみ記録がある（Chen and Shao, 2002；Wang, 2011；Chen and Zhang, 2015；本研究）。日本国内では伊豆諸島伊豆大島，草垣群島，大隅諸島黒島，トカラ列島中之島，中

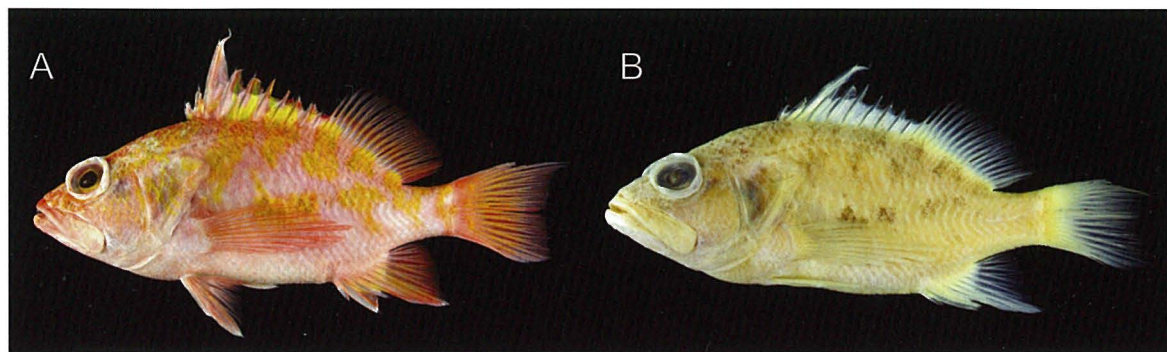


Fig. 3. Fresh (A) and preserved (B) specimen of *Plectranthias kamii* from Kagoshima Prefecture, Japan. KAUM-I. 60920, 182.2 mm SL, Amami Islands.

之島東方の屋久新曾根（海底台地），および奄美大島から確認された（Katayama, 1957；本研究）。

備考 鹿児島産の標本は，背鰭軟条数が17–18，胸鰭軟条数が13で最上軟条を除いてすべて分枝，側線有孔鱗数が32–33，側線上方横列鱗数が4.5，頬鱗列数が5，鰓耙数が17–18，背鰭棘第3棘が最長，尾鰭が截形，および体側背縁と中央部にそれぞれ並ぶ斑の分布様式が，*Plectranthias sheni* の標徴とよく一致した。

鹿児島産の標本は臀鰭最長軟条長が体長の20.2–21.8%であったが，台湾産の標本は22.8–24.1%と僅かに長い（Chen and Shao, 2002）。台湾産の *P. sheni* のホロタイプは臀鰭第1–2軟条の先端が糸状に伸長する（Chen and Shao, 2002: fig. 2）。しかし，鹿児島産標本の臀鰭軟条部の状態は，前方の1–3軟条が伸長しない，または僅かに伸長するものまで変異がみられた。これらの相違が地理的変異あるいは個体変異であるのか，今後追加標本を得て詳細に検討する必要がある。

Plectranthias sheni は体側背部から中央部にかけて固定後も明瞭に残る特徴的な褐色斑をもつが，本研究により得られた追加標本からこれらの分布様式に変異が認められた（Fig. 2）。Chen and Shao (2002) は本種の背鰭第4–9棘基下方に縦長の1暗褐色斑があり，一部の個体は斑の中央に三角形の淡褐色域をもつとした。しかし，鹿児島産の8標本では暗褐色斑中央に淡褐色域があり（Fig. 2B, D），残りの2標本では独立した2つの斑を形成する（Fig. 2A, C）。また，Chen and Shao (2002) は本種の背鰭軟条基下方に3暗褐色斑があったが，鹿児島産の2標本では，これらの斑が連なり帯状を呈すものが確認された（Fig. 2C, D）。

Plectranthias sheni は背鰭軟条数が17–18，前鰓蓋骨後縁の下部に前向棘をもつ，胸鰭軟条が最上部

の1本を除いてすべて分枝する，背鰭第3棘が最長，および主上顎骨が無鱗であることなどの特徴が *P. anthioides* (Günther, 1872)，イズハナダイ *P. kamii* Randall, 1980，およびフジナハナダイ *P. wheeleri* Randall, 1980 とよく似る。しかし，*P. sheni* は *P. anthioides* と比較して，胸鰭軟条数が13（*P. anthioides* では14），側線上方横列鱗数が4.5（35），腹鰭後端が肛門に達しない（達する），および尾鰭が截形（円形）であることから識別される（Randall, 1980；Chen and Shen, 2002；本研究）。また，*P. sheni* はイズハナダイとフジナハナダイと比較して，側線有孔鱗数が32–33 [イズハナダイでは33–38（通常34–36），フジナハナダイでは28–29]，頬鱗列数が5（ともに6）であることによって識別される（Randall, 1980；Chen and Shao, 2002；瀬能, 2013, 2014；本研究）。加えて，*P. sheni* はイズハナダイと比較して，側線下方横列鱗数が12–14（イズハナダイでは15–19）であることから識別可能である（Randall, 1980；Chen and Shen, 2002；本研究）。なお，Chen and Shao (2002) は背鰭第2棘長 / 背鰭第3棘長の値によって，*P. sheni* とイズハナダイが識別できるとした [4個体の *P. sheni* と1個体のイズハナダイ（ともに台湾産），およびRandall (1980) に基づく]。しかし，本研究で10個体の *P. sheni* と14個体のイズハナダイ（ともに日本産）を比較したところ，*P. sheni* の値が0.51–0.59（平均0.55）に対して，イズハナダイでは0.42–0.55（0.47）と両種を明瞭に識別できなかった。*Plectranthias sheni* とイズハナダイは，体側の模様においても相違が確認されている（Chen and Shao, 2002；本研究）。*Plectranthias sheni* は体側上部の背鰭基底に沿って並ぶ斑の下縁が大きく側線下方に達しないのに対して，イズハナダイでは側線下方へ大きく越える（Chen and Shao, 2002；本研究：Figs. 1, 3）。また，*P. sheni* の体側中央部の

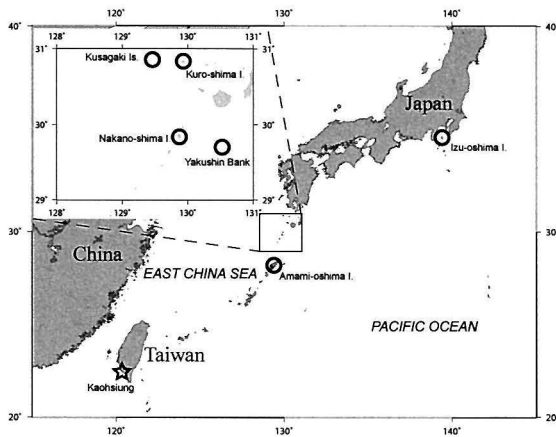


Fig. 4. Distributional records of *Plectranthias sheni*. Star and circles indicate type locality and the present records respectively.

斑列は、背腹方向にやや伸長した斑が帯状に多数並び、後方では斑が癒合し連続した縦帯を形成するのに対して、イヅハナダイでは不定形の大きな斑が連なることなく並ぶ (Chen and Shao, 2002 ; 本研究 : Figs. 1, 3). さらに、固定後も残る褐色斑は、*P. sheni* では輪郭が比較的明瞭で濃いのに対して、イヅハナダイでは不明瞭で薄い傾向が認められた (Fig. 2, 3B).

イヅハナダイ属魚類は一部の種を除いて、水深 100–300 m に生息しており、最深記録は 420 m である (Allen and Walsh, 2015). 鹿児島産 *P. sheni* は水深 180–360 m で採集された (本研究). Chen and Shao (2002) は *P. sheni* が採集された水深について言及しておらず、本研究で初めて *P. sheni* の生息水深が明らかになった. なお、台湾産 *P. sheni* の生鮮時の標本写真 (Chen and Shao, 2002; fig. 1) は急な水圧変化により膨出したと思われる眼球が確認できることから、本種は台湾においても鹿児島産の個体と同様に深場に生息していると考えられる.

Plectranthias sheni は原記載以降、台湾からのみ知られていた (Chen and Shao, 2002 ; Wang, 2011 ; Chen and Zhang, 2015). 鹿児島産 10 個体の標本に加え、Katayama (1957) の伊豆大島産 *P. anthioides* は本研究によって *P. sheni* と同定された (後述). したがって、本報告は *P. sheni* が日本に分布することを初めて明らかにするものである.

標準和名の検討 瀬能 (2013) は和名イヅハナダイが提唱された標本について *P. sheni* である可能性を示唆したため、*P. kamii* と *P. sheni* それぞれ

に適用すべき標準和名の検討を行った. Katayama (1957) は伊豆大島から得られた 1 標本を *P. anthioides* に同定し、後に Katayama (1960) によって *P. anthioides* に対して和名イヅハナダイが提唱された. その後、Randall (1980) は琉球列島産の標本をホロタイプとして *P. kamii* を新種として記載し、Katayama (1957) が *P. anthioides* とした標本について疑問符を付して *P. kamii* と同定した. ただし、Randall (1980) は Katayama (1957) の標本が *P. kamii* のホロタイプと比べて、胸鰭軟条数が 15 と多いこと、側線有孔鱗数が 33 と少ないことを指摘した. 一方、瀬能 (2013) は 2002 年に記載された *P. sheni* の標徴から、Katayama (1957) が *P. anthioides* とした標本は色彩や側線有孔鱗数が少ないことにおいて *P. sheni* と酷似するとしたが、同時に側線下方横列鱗数が 14 (*P. sheni* では 12) と多いこと、図から読み取れる形質について、頬鱗列数が 6 (5)、背鰭第 2 棘長 / 背鰭第 3 棘長が 0.5 以下 (0.53 以上) と異なることを指摘した. 瀬能 (2013) は以上の経緯から Katayama (1957) の標本について懸案としながらも、同標本の所在が不明であること (Randall 1980), Yoshino (1972) とそれ以降にイヅハナダイとして図示されたもの (例えば、益田ほか, 1975, 1988 ; 瀬能, 2000) はすべて *P. kamii* に同定され混乱がみられないことから、*P. kamii* に適用すべき標準和名をイヅハナダイとした.

本研究では *P. sheni* と Katayama (1957) が *P. anthioides* とした標本についてこれらの経緯を考慮した上で、鹿児島産の追加標本を含めて再検討した結果、瀬能 (2013) において指摘された側線下方横列鱗数および背鰭第 2 棘長 / 背鰭第 3 棘長の値の相違はともに種内変異と判断した. また、頬鱗列数の相違について Katayama (1957) の図では眼窩周辺の小鱗も頬の鱗と同様に描かれている可能性があり、これに起因するものだと考えられる [本研究では Randall (1980) の計数方法では眼窩周辺の小鱗は頬鱗列数に含めない]. なお、胸鰭軟条数において Katayama (1957) の *P. anthioides* は 15 (*P. sheni* は 13) と多いが、そのほかの形態や色彩の特徴は *P. sheni* とよく一致した (Chen and Shao, 2002 ; 本研究). したがって、本研究では Katayama (1957) が *P. anthioides* とした標本は *P. sheni* と同種であると結論した. なお、Katayama (1957) が *P. anthioides* のシノニムリストに加えた Schmidt (1931) の *S. analis* は *P. sheni* と比較して、胸鰭軟条数が 14 (*P. sheni* では

13), 側線有孔鱗数が 34 (32-33), および固定後, 体に斑がない(ある)ことから, 別種である(本研究). 上述した経緯から, 標準和名イズハナダイは Katayama (1957) が伊豆大島から報告した *P. anthioides* (本研究で *P. sheni* と結論) に対して, 適用されることになる. しかし, *P. sheni* に適用すべき標準和名をイズハナダイとすることは, 和名の安定性を考慮すると不適切である. よって, 瀬能 (2013) の判断に従い, 従来通り *P. kamii* に適用すべき標準和名をイズハナダイとし, *P. sheni* に対しては鹿児島産の標本 (KAUM-I. 83683, 体長 93.4 mm) に基づき新標準和名キオビイズハナダイを提唱する. 新標準和名は本種の体側中央部の黄色斑が帯状に多数並ぶことに因む.

比較標本 イズハナダイ *Plectranthias kamii*: 14 個体 (体長 182.2-241.5 mm): KAUM-I. 52252, 体長 234.7 mm, KAUM-I. 52253, 体長 212.9 mm, KAUM-I. 52254, 体長 214.6 mm, KAUM-I. 58815, 体長 241.5 mm, 鹿児島県甌列島; KAUM-I. 33981, 体長 218.0 mm, KAUM-I. 46926, 体長 201.8 mm, 鹿児島県宇治群島; KAUM-I. 56985, 体長 211.6 mm, KAUM-I. 56986, 体長 215.9 mm, 鹿児島県大隅諸島種子島; KAUM-I. 1654, 体長 232.0 mm, KAUM-I. 1655, 体長 191.6 mm, 鹿児島県大隅諸島屋久島; KAUM-I. 37070, 体長 227.8 mm, 鹿児島県大隅諸島; KAUM-I. 60919, 体長 196.3 mm, KAUM-I. 60920, 体長 182.2 mm, 鹿児島県奄美群島与論島; KAUM-I. 93789, 体長 210.6 mm, 沖縄県.

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり標本の採集に際しては, 南さつま市の宮下 透氏と大黒丸船長の中川輝幸氏に多大なご協力を頂いた. 国立科学博物館の栗岩 薫氏には文献の調査にご協力して頂いた. 鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同館魚類分類学研究室の皆さまには標本の調査にご協力して頂いた. これらの方々に謹んで感謝の意を表す. 本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた. 本研究の一部は JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業-アジア・アフリカ学術基盤形成型-「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」, 総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェ

クト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた.

引用文献

- Allen, G. R. and F. Walsh. 2015. *Plectranthias bennetti*, a new species of anthiine fish (Pisces: Serranidae) from the Coral Sea, Australia. *J. Ocean Sci. Found.*, 16: 82-89.
- Chen, D. and M. Zhang. 2015. *Marine fishes of China*. China Ocean University Press, Tsingtao. 2154 pp.
- Chen, J.-P. and K.-T. Shao. 2002. *Plectranthias sheni*, a new species and *P. kamii*, a new record of anthiine fishes (Perciformes: Serranidae) from Taiwan. *Zool. Stud.*, 41: 63-68.
- Gill, A. C., Y.-K. Tea and H. Senou. 2016. *Plectranthias takasei*, new species of anthiadine fish from southern Japan (Teleostei: Serranidae). *Zootaxa*, 4205: 349-356.
- Heemstra, P. C. and J. E. Randall. 2008. A review of the anthiine fish genus *Plectranthias* (Perciformes: Serranidae) of the western Indian Ocean, with description of a new species, and a key to the species. *Smithiana Bull.*, 10: 3-17.
- Katayama, M. 1957. On some rare fishes from Izu-oshima, Japan. *J. Ichthyol.*, 6: 147-159.
- Katayama, M. 1960. *Fauna Japonica: Serranidae (Pisces)*. Biological Society of Japan, Tokyo. viii + 189 pp.
- Lee, S.-C. 1990. A revision of the serranid fish (family Serranidae) of Taiwan. *J. Taiwan Mus.*, 43: 1-72.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 379 pp.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1988. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚 改訂版. 東海大学出版会, 東京. 383 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 岡本 誠・星野浩一・木暮陽一. 2012. 東シナ海から採集された日本初記録のハナダイ亜科魚類ミズホハナダイ(新称) *Plectranthias elongatus*. *魚類学雑誌*, 59: 55-60.
- 岡本 誠・本村浩之. 2017. 奄美群島西方から得られた日本初記録のハナダイ亜科魚類 *Plectranthias xanthomaculatus* ユズノミハナダイ(新称). *日本生物地理学会会報*, 71: 47-52.
- Randall, J. E. 1980. Revision of the fish genus *Plectranthias* (Serranidae: Anthiinae) with descriptions of 13 new species. *Micronesica*, 16: 101-187.
- Schmidt, P. 1931. Fishes of Japan, collected in 1901. *Trans. Pac. Comm. Acad. Sci. U. S. S. R.*, 2: 1-176.

- 瀬能 宏. 2000. ハタ科. 中坊徹次 (編), pp. 690–731, 1539–1547. 日本産魚類検索 全種の同定 第二版. 東海大学出版会, 東京.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科. 中坊徹次 (編), pp. 757–802, 1960–1971. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏. 2014. フジナハナダイ (新称) *Plectranthias wheeleri* Randall, 1980. 本村浩之・松浦啓一 (編), pp. 160–161, 奄美群島最南端の島 – 与論島の魚類, 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- Shen, S.-C. and W.-W. Lin. 1984. Some new records of fishes from Taiwan with descriptions of three new species. Special Publ. Taiwan Mus., 4: 1–25.
- Tashiro, S. and H. Motomura. 2017. First Japanese record of the Barred Perchlet, *Plectranthias fourmanoiri* (Perciformes: Serranidae), from the Ryukyu Islands. Spec. Divers., 22: 81–85.
- Wang, W.-H. 2011. Fishes of Taiwan. National Museum of Marine Biology and Aquarium, Pintung. 896 pp.
- Yoshino, T. 1972. *Plectranthias yamakawai*, a new anthiine fish from Ryūkyū Islands, with a revision of the genus *Plectranthias*. Japan. J. Ichthyol., 19: 49–56.
- 財団法人日本色彩研究所. 2010. 改訂版 色名小事典. 日本色研事業株式会社, 東京. 90 pp.